

PHAYAOLレポート 2008-15 (～ロッジがあるモンの村～)

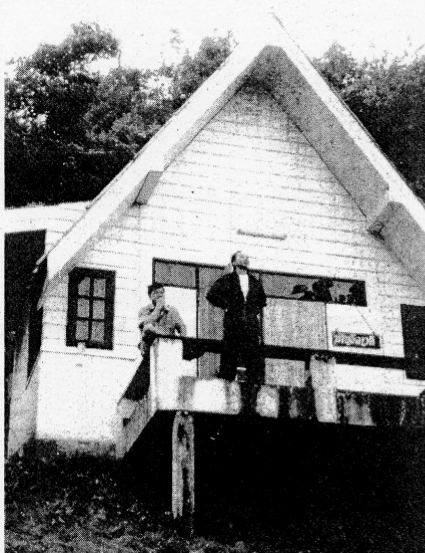
スタディツアー参加者からの報告 (日刊新周南 連載記事から)

藤屋侃二さん(68) 下松市幸ヶ丘 元KRY取締役ラジオ局長

南

2009年(平成21年)2月12日(木)

4



タイ国王が建てたロッジ

ロッジがあるモンの村

インドシナ戦争はベトナム、ラオス、カンボジアを戦場とした第二次世界大戦後の最も悲惨な長期の戦争だったと言われる。一九七五年四月、南ベトナムの首都サイゴンが陥落し、共産軍勝利で戦争は終結した。

この戦争でアメリカは最も多い時で兵士五十万人を送り込んだが、アメリカが撤退するとラオスに住んでアメリカに協力したモン族は居場所を失い、たくさん難民が隣国タイに流れ込んだ。

タイ北部の山岳地帯に住むようになったモン族とタイ政府軍が衝突し、双方にかなりの死者が出た。タイ政府は

彼らが共産ゲリラ化するのを恐れて低地定住政策を打ち出し、かなりのモン族が山を降りた。しかし今もたくさんの方が山岳地帯で生活している。山のモンとの友好政策の一つとしてタイ国王はモンの村にロッジを建設し、運営をモンの人たちにまかせている。

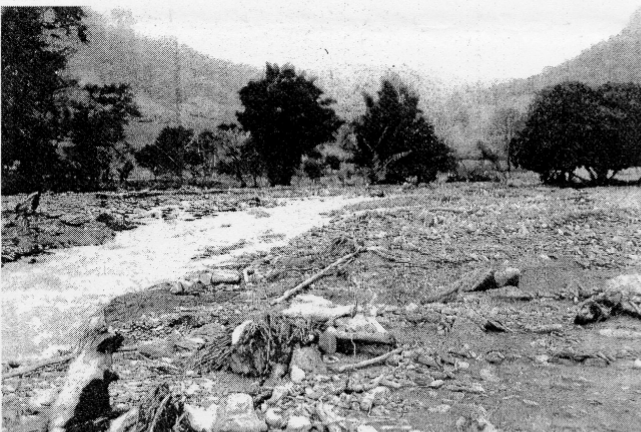
低地は水稲だが、山は陸稲。米のほかにはウモロコシやキャベツを栽培している。ほとんどの家で、豚と鶏を飼っている。ロッジを訪れて一番驚いたのは、昨年七月から八月にかけての大雷雨で、山の畑が大きな被害を受けていたことである。

目先のプーランカ山の頂上付近にも崩れの跡があり、中腹には縦にくぼみがあり、大量の土砂が流れ出て、開墾した畑は大きな被害を受けている。山とナムカー村の間を流れる川の位置も変わり、これは彼らがこ



大雨の時に作られた仮橋

ここに住んで以来初めてのことだという。山のロッジはそれほど利用されていない。近くには見えない。近くにはタイの観光マップにも出ていない。景勝プー！チーファア(ラオス国境の断崖絶壁の名勝で、山頂からメコン川やラオスの壮大な景観が見える)もあるのだから、雨でも普通の車で見える。元山口放送取締役ラジオ局長



洪水で無残に流された畑